

令和6年度(2024 年度) 学校法人福島聖心学園各幼稚園の事業報告書
【小名浜白百合幼稚園】

当幼稚園における令和6年度事業内容につきまして、下記のとおり報告いたします。

1. 項目別

項目	計画(=Plan)	実行(=Do)／ 評価(=Check)	改善(=Action)
目的 (園則より)	この幼稚園は学校教育法第22条及び23条に従って幼児を保育しキリスト教に基づき、幼児に適当な生活環境を与え、心身の正しい発達を助長すると共に、道徳的心情、将来の善良なる社会人の健康と特性との基礎を作り家庭教育を補うことを保育の目的とする。 なお、インフルエンザ、コロナウイルス等の感染症対策については、引き続き園児、保護者、職員の安心安全を確保すべく、感染・拡散防止対策に努める。	本園は子どもとの生活の中で「感動する心、感謝する心、祈る心、共に生きる力」を育てる心の教育を目標とし、園児一人ひとりが安心できる居場所となるよう、寄り添い認める保育をし、更に生活習慣を身につけさせると共に集団での遊びが充実する保育を行った。 教育目標である心の教育を達成するため、職員間での共通理解を深める努力をした。 本年度は新型コロナウイルスに限らず様々な感染症が市井に広がりを見せる中、本園も例外ではなかったが、園児一人ひとりが心身ともに健やかに成長するために、感染防止策として下記の通り実施した。 ●基本的習慣(検温、手指消毒、マスクの適切な着脱、備品・玩具等の消毒作業)を継続し、安全安心を重視して園児の健康管理に努めた ●様々な感染症ごとの対処等について共通理解を重ね連携し、職員室に情報を集約した ●園児の日々の生活、遊び、行事等の見直しを繰り返し行い、職員の知恵と工夫により、安心安全の中で仲間と充実した園生活を過ごせるよう努めた	令和7年度についても、同様の方針で教育目標に沿って保育を進めて行く。

年間行事 について	積み重ねと継続を大切にし、各種行事を挙 行する。 予定の詳細については、各幼稚園の年間 行事予定表を作成及び公表する。	別紙、年間行事予定表に沿って行事を行い、保護 者からも子どもたちの成長に対し評価をいただいた。 初めてとなるカトリックいわき教会でのクリスマスのお 祈り(従来のクリスマス礼拝)を実施したことで、あらた めて本園がカトリックの教えに基づき教育活動を行っ ていることを提示することが出来、保護者からも高い評 価を得た。 引き続き各行事の保護者手伝いを極力縮小し、職 員の手で行事を行ってきた。特に夏季の酷暑があり、 園児だけでなく職員も熱中症対策を細やかに行いな がら無事に各行事を遂行することが出来た。 また、保護者の声を反映して、始業式の公立小学校 同日実施、及び預かり保育実施日の増設を行い、日 常保育の中でも保護者の就労支援につながるよう変 革を意識することが出来た。	日々の保護者対応で、母親の就労率 の高さを実感している。保護者の来園に ついては参観や観覧を主とし、行事は 極力職員のみで実施していくよう今後も 継続する。 職員間の連携「報連相」が、行事だけ でなく日常保育の現場レベルにおいて も重要であることを職員一人ひとりが理 解し、実感できるよう、職員教育にも力を 入れたい。
新規事業 について	① 砂場用砂搬入	園児の遊びの充実ため、経年で減った砂を補充し た。	今後も保育環境の整備に努め、質の高 い保育を提供したい。

新規事業 について	② 園庭遊具修理及び部品交換、塗装	経年劣化を修繕し、園児の安全を確保した。	大通りに面した園庭であるため、外観の整備にもなり園児募集に繋げることが出来た。今後も保育環境の整備に努め、質の高い保育を提供したい。
	③ 物置設置工事	災害時の一時避難場所である屋上に物置を設置し、数品目ある避難用品を整理して保管することができるようになった。	今後も災害時の園児の安心安全を担保し、人的被害が可能な限りなくなるよう環境整備に努めたい。
	④ クリスマスツリー設置	園児、保護者及び地域の皆様のへの光として園庭に設置した。	今後も地域貢献また園児募集の一環としても継続し、カトリック園としてクリスマスを大切にしていきたい。
	⑤ 複合機リース契約	既設の印刷機がリースアップするにあたりコスト面も併せて見直し、2 台使用していたものを1 台に削減し、機能的にもより良いものとなった。	従来の半額程度のランニングコストとなり、また機能面でもより良くなった。今後も継続して活用していきたい。

職員の 質向上に ついて (研修等への 参加含)	園内外の研修に参加し、保育の質の向上に力を注ぐ。 聖書からの心の糧を養う研修に参加する。 特別支援を要する幼児の保育向上にも力を注ぐ。 小動物や植物、野菜など自然とのふれあい事業を通し、命の大切さ、小動物との関わり方などを学ぶ。 避難訓練、防災訓練、交通安全教室を通し、危機管理に係る知識を深める。	研修を通して職員間の共通理解を深め、保育の質の向上を図ることが出来た。 本年度は年度途中の管理職の退職があり、年度半ばでの体制変更を余儀なくされる中、日々の保育や各行事を遂行してきた。 「報連相」の滞りが時折見られたが、大きな混乱を来さずに年度を終えることができたのも、新体制となっても変わらずに園児一人ひとりに向き合い、丁寧に保育をしてきたことが大きな要因であった。 職員全体として、「報連相」の在り方をもう一度理解し共通の認識とすること、縦の流れや横の繋がりなど組織としてあるべき姿を想像することについて、より一層働きかけを強くする必要がある。	令和7年度も新採用を迎え、引き続き経験の浅い職員が多くいる体制での教育提供となる。 職員一人ひとりが、自分が出来ること、すべきことを考え自覚して自己研鑽できるよう、研修の機会を積極的に設け、また「報連相」を円滑に当たり前に行うことが出来るよう、職員間のコミュニケーションの重要性を終礼等で周知したい。
---	--	--	--

2. 総括

- 職員が「何を大切にするか」を考え、思い、共通理解し実践している。保護者は園と職員を信頼してくださり、理解、協力してくださっている。この信頼関係があってこそ、園運営、保育・行事に関すること、全てが予定通り行えた要因だと思う。
- 発達障がい児や気になる部分がある園児を受入れ、保護者と連携を取りながら個々に寄り添った保育を実行してきた。一部の療育施設との連携も取れ、当該園児の特性や寄り添い方等について共通認識を深めることも出来た。
健常児についても同様に、心身の定型発達以上に、違いを理解しようしたり、認め合い、助け合おうとしたりする姿が見られ、カトリック幼稚園としての教育目標「感動する心」「感謝する心」「祈る心」「共に生きる力」が芽生え育ってきていることを実感し、手を合わせ感謝した。
- 前年度、各クラスへのパソコン配備を実施したことに加え、本年度は管理職へ 1 台ずつ配備できるよう準備を進めてきた。今後も、作業効率化と個々の更なるスキルアップを目指し、適切に ICT を取り入れて、更なる労働環境改善に積極的に尽力したい。
- 本年度の保護者アンケートによると、連絡帳や配布物の電子化を求める声が前年度より多く見受けられた。小学校以上の教育機関では当たり前になりつつある事象であるため、本園においても出来得る限り対応できるよう、次年度以降準備を進め、職員も学ぶ機会を作りながら取り組みたい。
- 事務局により、補助金手続や、感染症等に係る就労体制の構築・整備、及び園が抱える諸問題等を解決していただいていることにより、混乱なく園運営を行うことが出来た。
- 少子化が止まらない社会情勢の中、保護者支援・就労支援の必要性が強く求められている。「選ばれる幼稚園」であるためには、保護者支援は大きな要素になる。これまで以上に情報発信を行い、保護者のニーズに応えながら本園の教育理念を丁寧に伝えていく努力をしなければならないと考える。
一方で、日々の保育や行事を通してどのように園児たちに向き合い、卒園までにどれだけのものを子どもたちに手渡そうとしているかを周知するため、ホームページの更新を増やしたところであるが、令和 7 年度入園見学説明会アンケートでの入り口調査では、回答者の内の半数はホームページとの回答であった。
情報発信のウエイトの大きさを再認識するとともに、今後も力を入れていきたい。